

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
ブリグロックスL ジクワット 7.0% パラコート 5.0%	非ホルモン型の非選択接触性除草剤であり、光合成過程で生じた本剤の過酸化物が細胞を破壊し殺草する。	野菜類※ かぼちゃ ピーマン ほうれんそう はくさい すいか メロン ごぼう ばれいしょ さといも やまのいも うど	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 野菜類※で対象とする作物は、「除草剤別対象作物一覧表」を参照。 2. 雑草にのみ散布し、作物には薬液がかからないように注意する。 3. 雑草の5～6葉期までに散布すると効果が高い。 4. 危害防止のため、起泡剤を添加し、フォームスプレーノズルで散布する。 5. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 6. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 7. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。 8. 曇天、夕方に散布すると効果が高い。 9. 毒性が強いので、散布及び保管には細心の注意を払う。
サンフーロン液剤 グリホサートイソ プロピルアミン塩 41.0%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	野菜類※	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 野菜類※で対象とする作物は、「除草剤別対象作物一覧表」を参照。
タッチダウンiQ グリホサート カリウム塩 44.7%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	野菜類※ たらのき はくさい ほうれんそう ばれいしょ	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 野菜類※で対象とする作物は、「除草剤別対象作物一覧表」を参照。 2. 付近の作物にかからないようにする。 3. 散布後2時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見極めてから散布する。 4. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 5. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 6. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
ラウンドアップ マックスロード グリホサート カリウム塩 48.0%	非選択性の吸収移行型の除草剤で、茎葉部から吸収され、主として芳香族アミノ酸の生合成阻害によって殺草する。	野菜類※ ピーマン とうがらし類 はくさい ほうれんそう ばれいしょ さといも やまのいも	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 野菜類※で対象とする作物は、「除草剤別対象作物一覧表」を参照。 2. 雑草の葉面が軽く均一にぬれる程度に散布する。 3. 付近の作物にかからないようにする。 4. 散布後1時間以内の降雨は効果を減ずるので、天候をよく見極めてから散布する。 5. 枯死するまで2週間程度要するので誤って再散布しない。 6. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 7. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 8. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	ピーマン とうがらし類 すいか ズッキーニ がうり ごぼう かぼちゃ メロン はくさい かぶ にら さやえんどう 未成熟そらまめ さやいんげん みつば みしまさいこ ほうれんそう ふき しそ(花穂) さといも やまのいも ばれいしょ	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 作物には薬剤が絶対にかからないようにする。 2. 散布後6時間以内の降雨は効果を減ずることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。 3. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 4. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 5. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
ザクサ液剤 グルホシネートP ナトリウム塩 11.50%	非ホルモン型吸収移行性の非選択性除草剤であり、体内に移行し、グルタミン合成酵素の作用を阻害し、アンモニアを過剰に蓄積させ光合成を阻害し殺草する。	すいか メロン ピーマン とうがらし類 ごぼう ほうれんそう さやいんげん さやえんどう しそ ばれいしょ さといも やまのいも みょうが(花穂)	一年生雑草 <雑草茎葉処理>	1. 作物には薬剤が絶対にかからないようにする。 2. 散布後6時間以内の降雨は効果を減らすので、天候をよく見極めてから散布する。 3. 畦間処理は、作物にかかると確実に葉害が発生するので、専用の噴口や飛散防止カバーを使用するだけでなく、風や上昇気流にも注意する。 4. 株際が畦間に近い作物は、特に注意する。 5. 散布器具の洗浄液を畦間に流し込まない。
ナブ乳剤 セトキシジム 20.0%	非ホルモン型吸収移行型の選択性除草剤であり、イネ科雑草の茎葉部及び根部から吸収され生長点に移行し、分裂細胞組織の伸長を抑制し殺草する。	すいか かぼちゃ さやえんどう 未成熟そらまめ さやいんげん はくさい かぶ ごぼう さといも カリフラワー 非結球あぶらな科 葉菜類 ほうれんそう にら やまのいも ばれいしょ	イネ科畑地 一年生雑草 (スズメノカタビラは除く) <雑草茎葉処理>	1. イネ科雑草(スズメノカタビラは除く)優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. 遅効的であり、完全に枯殺するまでに7~10日を要する。 4. 冬期の低温時や出穂期以降など、雑草の生育が停止しているときは効果が劣る。
セレクト乳剤 クレトジム 24%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、根部から吸収され蒸散流にのって茎葉に移行し、主に光合成阻害または光合成過程で毒素を生成することにより殺草する。	かぼちゃ	一年生イネ科雑草 <雑草茎葉処理>	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. 完全に枯殺するまでに通常1~2週間前後を要する。 4. イネ科雑草は3~5葉期に処理する。 5. 展着剤を加用すると効果的である。 6. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
ホーネスト乳剤 テブラロキシジム 10%	選択性除草剤であり、一年生イネ科雑草の茎葉部から吸収され、雑草の生長点に作用し地上部、根部の全身を枯殺する。	やまのいも	一年生イネ科雑草 <雑草茎葉処理>	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. イネ科作物にかからないようにする。 3. イネ科雑草は3~5葉期に処理する。 4. 完全に枯殺するまでに7~10日を要する。
ロックス リニュロン 50.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、根部から吸収され蒸散流にのって茎葉に移行し、主に光合成阻害または光合成過程で毒素を生成することにより殺草する。	ばれいしょ さといも	一年生雑草 <土壌処理>	1. 茎葉にかからないようにする。 2. 砂土、れき質土壌、心土が露出しているような土壌、及び腐植含量2%以下の土壌では使用しない。 3. 高温時には使用しない。 4. セリ科雑草には効果が劣る。 5. 本剤を処理した畑では4カ月以内は他作物を作付けできない。 6. さやいんげんには使用できないので注意する。 7. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	非ホルモン型吸収移行性の除草剤であり、根部または幼芽部から吸収され、生長点の細胞分裂を阻害し殺草する。	ばれいしょ さといも やまのいも カリフラワー はくさい みしまさいこ	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草の発生前に散布する。 2. 処理後一部雑草の発生が見られることがあるが、その後生育は停滞し、やがて枯死するので処理後間もない中耕除草は避ける。 3. イネ科及び広葉の一年生雑草には効果があるがキク科雑草とツユクサには効果が劣る。 4. 土壌が過乾、過湿のときは使用を避ける。 5. 有機質の少ない圃場では薬量を少なめにする。 6. 苗床では使用しない。 7. 播種後に使用する場合は、覆土をていねいに行う。 8. はくさいのセル成型苗(プラグ苗)には葉害が発生する恐れがあるので使用を避ける。 9. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
ゴーゴーサン細粒剤F ペンディメタリン 2.0%	非ホルモン型吸収移行性の除草剤であり、根部または幼芽部から吸収され、生長点の細胞分裂を阻害し殺草する。	はくさい さといも ばれいしょ (マルチ栽培除く) ばれいしょ (マルチ栽培)	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草の発生前に散布する。 2. 処理後一部雑草の発生が見られることがあるが、その後生育は停滞し、やがて枯死するので処理後間もない中耕除草は避ける。 3. イネ科及び広葉の一年生雑草には効果があるがキク科雑草とツユクサには効果が劣る。 4. 土壌が過乾、過湿のときは使用を避ける。 5. 有機質の少ない圃場では薬量を少なめにする。 6. はくさいで使用する場合、極端な浅植えや深植えに定植したセル成型苗(プラグ苗)には葉害を生ずるおそれがあるので注意する。

農薬名	特性	作物名	対象雑草名 <処理法>	使用上の注意事項
トレファノサイド乳剤 トリフルラリン 44.5%	非ホルモン型の除草剤であり、根部及び幼芽部から吸収され、側根の形成を阻害したり、幼芽部の細胞分裂を阻害し発生を抑制する。	さといも はくさい (移植栽培) はくさい (直播栽培) 非結球あぶらな科 葉菜類	畑地一年生 雑草(ただしツユク サ、カヤツ リグサ、ア ブラナ科、 キク科雑草 を除く)<土 壌処理>	1. できるだけ作物にかからないように散布する。 2. 砂質土壌では少なめの薬量で散布する。 3. 曇った日や夕方に散布する。 4. 処理時に発生している雑草には効果が無いので、雑草の発生する前に均一に散布するか、または中耕除草・培土などにより除草してから散布する。 5. ナズナ、タネツケバナ、イヌガラシ、ツユクサ、カヤツリグサ、ノボロギク、タデなどに効果が劣る。 6. はくさいは、整地直後に全面処理し、3日後にマルチをする。5日後にマルチを切開し、2日以上あけてから定植する。 7. はくさいのトンネルは3日以上たってからかける。 8. は種後に使用する場合には、発芽してからの使用は薬害を生ずる恐れがあるので避ける。
トレファノサイド粒剤 2.5 トリフルラリン 2.5%	非ホルモン型の除草剤であり、根部及び幼芽部から吸収され、側根の形成を阻害したり、幼芽部の細胞分裂を阻害し発生を抑制する。	すいか (トンネル・マルチ 栽培) ばれいしょ さといも	畑地一年生 雑草(ただしツユク サ、カヤツ リグサ、ア ブラナ科、 キク科雑草 を除く)<土 壌処理>	1. 土壌が湿った状態で施用する。 2. できるだけ作物にかからないように散布する。 3. 砂質土壌では少なめの薬量で散布する。 4. 曇った日や、夕方に散布する。 5. 処理時に発生している雑草には効果が無いので、雑草の発生する前に均一に散布するか、または中耕除草・培土などにより除草してから散布する。 6. ナズナ、タネツケバナ、イヌガラシ、ツユクサ、カヤツリグサ、ノボロギク、タデなどに効果がある。 7. スイカでは、整地直後に全面処理し、3日後にマルチをする。 4日後にマルチを切開し、切開3日後に定植する。また、植付部分の土を取り除き、無処理の土で植え込む。植付後、株のまわりのマルチを無処理の土でおさえる。 8. は種後に使用する場合には、発芽してからの使用は薬害を生ずる恐れがあるので避ける。
コンボラル トリフルラリン 1.2% ベンディメタン 1.2%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、根部及び幼芽部から吸収され、側根の形成阻害、幼芽部の細胞分裂を阻害し、発生を抑制する。	さといも やまのいも	一年生雑草 (ただしツユク サ、キク科雑 草を除く)<土 壌処理>	1. 雑草の発生前～発芽前に散布する。 2. 土壌が過乾のときは使用を避ける。 3. 他は、ゴーゴーサン及びトレファノサイドを参照する。
ラッソー乳剤 アラクロール 43.0%	非ホルモン型移行性の除草剤であり、幼芽・幼根から吸収され、タンパク質の合成を阻害し発生を抑制する。	はくさい ほうれんそう	一年生雑草 <土壌処理>	1. 雑草の発芽前に使用する。 2. イネ科雑草に効果が強く、タデ、アカザ等広葉雑草には効果が劣る。 3. 薬量を厳守し、処理後大雨の予想される場合は使用を避ける。
レンザー レナシル 80.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤であり、発芽抑制作用が強く発生を抑制する。	ほうれんそう	一年生雑草 <土壌処理 >	1. 砂土など透水性のよい畑地では使用を避ける。砂壤土や有機物の多い軽い畑地では薬量を少なめにする。 2. 秋まきほうれんそう以外には使用しない。 3. 覆土は1cm以上とし、発芽後は使用しない。 4. 残効性が長く、後作にイネ科、マメ科、ウリ科、ナス科、アブラナ科作物を作付する場合は、処理後6カ月以内には栽培しない。 5. 生育した雑草には効果が低いので雑草発生前に散布する。
ラクサー乳剤 アラクロール 30.0% リニュロン 12.0%	非ホルモン型の吸収移行性除草剤である。	ばれいしょ	一年生雑草 <土壌処理>	1. 砂質土の保水力の小さい圃場では使用しない。 2. 砕土、整地はいいに行い、覆土深は2～3cm以上とする。 3. 土壌が極端に乾燥していると効果が劣る場合があるので、降雨後等適度な湿り気を持たせて散布する。 4. 雑草発生後の散布は効果が劣るので、発生前に散布する。
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤 ダゾメット 96.5%	広範囲の土壌病害やセンチュウに対して防除効果を示すとともに、雑草の発芽を阻止する。	すいか かぼちゃ メロン はくさい わけぎ さやえんどう チンゲンサイ にら ふき しゅんぎく さやいんげん こまつな ほうれんそう ごぼう さといも ばれいしょ やまのいも みずな しそ らっきょう とうがらし類 みょうが(花穂) みょうが(茎葉)	一年生雑草 <土壌処理>	1. 使用方法(消毒方法)はⅢ-14. 土壌病害虫の防除の項を参照する。